

<p>『早生の穂肥は、幼穂を確認し、 遅れないように施用しましょう』 ～ め ざ せ 全 量 1 等 米 ～</p>	<p>巻農業普及指導センター</p>
--	--------------------

**\*\*\*重点ポイント\*\*\***

- 早生の出穂期は平年より3日程度早いと予想される。
- コシヒカリの出穂期は平年より2日程度早いと予想される。
- 遅くとも出穂1か月前までには中干しを終了し、間断灌水～飽水管理を実施する。
- 早生の基肥一発の場合、1回目の穂肥時期に灌水し肥効を促す。2回目の穂肥時期に葉色を確認し追加施用を検討する。
- カメムシ被害に要注意。水田内外の除草と適期薬剤散布による防除を徹底する。

## 1 生育状況

稲の生育は、指標値に比べ草丈は「並～やや長い」、茎数「やや多い」、葉数「やや多い」葉色は「並～やや淡い」の傾向です。葉数が進んでいるほ場が多いことから、出穂期は早生で平年より3日程度、中生で2日程度早いと予想されます。

水稲生育調査結果（6月20日現在 巻農業普及指導センター管内調査データ）

品種名	移植日	草丈 (cm)		茎数 (本/m <sup>2</sup> )		葉数 (L)		葉色 (SPAD)	
		本年値	指標比	本年値	指標比	本年値	指標差	本年値	指標差
コシヒカリ	5月5日	42	105%	464	119%	9.2	+0.4	38.7	-1.3
こしいぶき	5月3日	40	100%	570	124%	9.4	+0.2	41.9	-0.1

## 2 出穂期予想と穂肥（早生が平年差-3日、コシヒカリが平年差-2日の場合）

※籾数過剰による品質低下が懸念されるため、穂肥の過剰施肥は厳禁！

早生の分施：出穂期は3日程度早い見込み。1回目の穂肥は、幼穂を確認し遅れないように穂肥を施用する。

早生の基肥一発：1回目の穂肥時期に灌水し肥効を促す。2回目の穂肥時期に葉色を確認し追加施用を検討する。

＜幼穂形成期・出穂期の予想と穂肥の目安＞（移植または播種時期：5月第1半旬）注1

品種名	幼穂形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)	穂肥時期 (月/日(出穂期前日数))		施用量 注2 (N kg/10a) 注3
			1回目	2回目	
五百万石	6/27	7/20	6/30(20)	7/ 8(12)	1.0～2.0
わたぼうし	6/27	7/20	6/28～6/30(22～20)	7/ 8～7/10(12～10)	2.0～3.0
ゆきん子舞	6/29	7/22	6/27～6/29(25～23)	7/ 8(14)	6.0
こしいぶき	7/ 1	7/24	7/ 1(23)	7/10(14)	2.0
こがねもち	7/ 8	7/31	7/13～7/16(18～15)	7/21(10)	1.0～3.0
連休植 コシヒカリ	7/11	8/ 3	7/16～7/19(18～15)	7/24(10)	1.0～3.0
5/10以降植 コシヒカリ	7/13	8/ 5	7/18～7/21(18～15)	7/26(10)	1.0～3.0
直播コシヒカリ	7/17	8/ 9	7/22～7/25(18～15)	7/30(10)	1.0～3.0

注1：幼穂形成期・出穂期予想は、天候により前後するので、幼穂や生育状況をよく確認する。

移植日が5日前後すると幼穂形成期・出穂期は1～2日前後する。

注2：窒素施用量は、2回の合計施用量

注3：砂壤土などの地力の低いほ場では、窒素成分で1kg/10a程度多めに施用する。

<穂肥診断> ～穂肥時は幼穂を必ず確認し適期に穂肥！～

1 回目穂肥時の生育量の目安

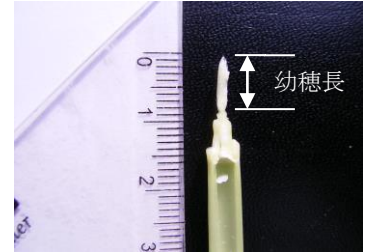
	こしいぶき (出穂前 23 日)	ゆきん子舞 (出穂前 24 日)	注意点
幼穂長	0.1 cm	0.1 cm	これより長草・茎数多・葉色濃い場合は、遅めの穂肥とする。
草丈	55～60 cm	65～70cm	
茎数	29 本/株 (60 株/坪植)	30 本/株 (60 株/坪植)	
葉色	35～37 (SPAD 値)	38～40 (SPAD 値)	

<幼穂長と出穂前日数> (早生品種)

出穂前日数	幼穂長
30 日前	0.02 cm
24 日前	0.1 cm
20 日前	0.2 cm
18 日前	1.0 cm



[幼穂の確認方法]



※写真は 1cm (コシヒカリ)

(早生は 0.1cm を確認)

3 水管理

～早期落水厳禁。品質重視の水管理を徹底！～

○幼穂形成期以降、出穂後 2

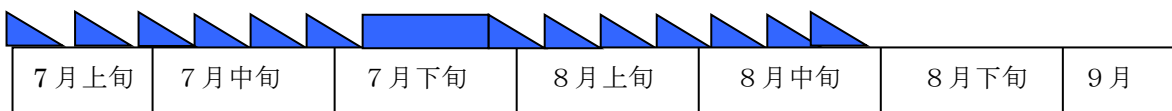
5 日までは飽水管理を継続し登熟向上を図る。

- 異常高低温や強風・フェーンが予想される時は、予め湛水し障害の発生を防止する。
- コシヒカリは、8 月末までかん水し、最終かん水は十分に湛水して自然落水を図る。

飽水管理：水尻は止水し、自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がなくなり始めたらかん水する管理

←----- 飽水管理期間 ----->

△早生 → △幼穂形成期 →→→ △出穂期 →→→→→ △出穂後 25 日



- ※中干し後は間断灌水を行い、徐々に飽水管理に移行する。
- ※出穂前後 10 日間は、水分不足にならないよう注意する。
- ※止水時期が早い地域では、最終通水日のとき十分に湛水し、自然落水を図る。

4 病虫害防除 ～ カメムシ類の斑点米被害に要注意！ ～

(1) カメムシ防除

① 除草

農道・畦畔の草刈りを必ず行う。雑草が結実しないようにこまめな雑草管理を行う。  
本田内のヒエやホタルイはカメムシの増殖場所となるので、本田除草も徹底する。

② 本田防除

本田防除は出穂期～出穂期 10 日後頃に全面散布を行う。  
水面施用粒剤は、水深 3 cm 程度の浅水条件で散布し、散布後は飽水管理を徹底する。  
※無人ヘリの防除日が出穂期から 10 日以上離れる場合は上記防除を追加する。  
※薬剤により散布適期・回数が異なるため、薬剤の使用方法を確認すること。

(2) 紋枯病

わたぼうし、ゆきん子舞、こしいぶき等の紋枯病が多発生しやすい品種で昨年発生が多かったほ場では、出穂 1 か月前を目処に早めに予防剤を施用する。

(3) 墨黒穂病

前年多発生したほ場やわたぼうし栽培ほ場では、防除を実施する。